

矢作川流域圏懇談会通信

H29 山部会編 vol.3



発行日：平成 29 年 8 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 41 回山部会WGを開催しました！

7月28日(金)~29日(土)に第41回山部会WGが根羽村ネバーランドにて開催されました。今回のWGにおいても、流域再生担い手づくり事例集、矢作川流域山村ミーティング、矢作川流域森づくりガイドライン、矢作川流域木づかいガイドラインの4つのテーマに関して、情報共有と意見交換を行いました。



日時：平成 29 年 7 月 28 日 (金) ~ 29 日 (土)
場所：根羽村ネバーランド サンホール 参加者：17名(事務局含む)

◆主な会議内容

1. 流域再生担い手づくり事例集について



本懇談会も8年目をむかえ、調査対象を山から流域に拡大する必要があることから、前回のWGにおいて、『山村再生』から『流域再生』に変更することになりました。7月18日に行われた第40回川部会ワーキングでは、川の地先の問題に対して、事例集の作成を呼びかけました。今後の予定は以下の通りです。

- ①取材先の確定(9/8) ②取材担当者の確定(~9月上旬) ③事前検討会(9月) ④取材(9~11月)
- ⑤中間報告会(11月) ⑥調査者によるレポートの作成・提出・交通費等の請求(12~1月)
- ⑦振り返りの会(2月) ⑧事例集の完成(2月全体会議まで) ⑨事例集交流会の実施(未定)

2. 矢作川流域山村ミーティングについて



山村ミーティングでは、以下の2項目の進行状況について情報共有と意見交換を行いました。

- (1) 矢作川感謝祭(9月2日実施)
昨日の矢作川感謝祭実行委員会では、以下の内容が決定した。
 - ①前夜祭の開催 ②会場の配置の決定 ③森林組合、農業協同組合、漁業協同組合の3者が参加
 - ④山の関係では根羽村森林組合(木づかい推進)、豊田森林組合(高性能林業機械の展示)、岡崎森林組合(岡森フォレストの演奏)の3団体の参加が決定
- (2) 「矢作川流域林業就労中堅離職問題実態調査」~矢作川流域担い手100人ヒヤリング
岡崎森林組合：組合よりヒヤリングの許可と組合員名簿をご提供いただいた。
豊田森林組合：組合長と専務に挨拶を行った。今後は各支所長より組合員名簿をいただく予定である。

3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて



森づくりガイドラインでは、信州大学農学部修士2年の孝森博樹様に「スギ人工林における森林路網が下層植生に及ぼす影響」として、根羽村の事例をご報告いただきました。これまでの研究で明らかになったことは以下の通りです。

《結果と課題》もともと多様性の低い人工林では、森林路網によって種数が増加する場合、種の入替わりが起こることで、地域全体としては多様性が増加する。また、森林路網の多様性創出効果に関しては、光環境による影響は小さく、光環境以外の要因が関与している可能性があり、土壌水分など別の要因についても調べる必要がある。

4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインでは、天竜川鷲流峡(がりゅうきょう)復活プロジェクト代表の曾根原宗夫様に「河川敷に繁茂する竹林の活用方法」について、天竜川での事例をご報告いただきました。主な活動と効果は以下の通りです。

共通の課題 『不法投棄』 『放置竹林』	【地域】竜丘地域自治体 【事業者】天竜舟下り(株)	竹林伐採を通して地域と事業者が連携	地域に及ぼす効果：不法投棄ゼロの実現、次世代のための環境教育 など 事業者に及ぼす効果：景観維持による観光客の増加、事業者の魅力アップ など
---------------------------	------------------------------	-------------------	---



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●流域再生担い手づくり事例集について

- ・ 豊田市旭地区の敷島自治区、足助地区の萩野自治区、下山地区の和合自治区が主体的な活動をしており、是非取材を行いたい。(山本)
- ・ 岡崎には、有限会社ファピナスという企業があり、綿花を利用したガラ紡を復活させるとともに、川の環境に配慮した草木染めなどに力を入れている。ちょうど、川の関係の団体という話が出たので推薦する。(沖)
- ・ 今後も平谷、根羽辺りからも候補が出るかもしれないし、川部会からも多く出るかもしれない。現時点では豊田市を中心に多く拳がっているが、川との連携を優先しながら選定することにしたい。(丹羽)
 - ▶ 8月の第41回川部会WGの動きを考慮して、9月の第42回山部会WGで決定する予定だ。(洲崎)

●矢作川流域圏山村ミーティングについて

《矢作川感謝祭》

- ・ 前夜祭を前日の18時から始めることになった。内容は、夜釣りや飲食を予定している。(丹羽)
- ・ 農協は何をするのか。(山本)
 - ▶ 地域ごとに異なるお米の試食会などを行う予定だ。(丹羽)
- ・ 事務局として行うべき手続き等はあるか。(服部)
 - ▶ 高性能林業機械等の重機の持ち込み許可が必要なのでお願いしたい。(丹羽)
- ・ 流域圏懇談会として、立ち寄れる空間を確保してほしい。これまでの成果を展示してもよいと思う。(山本)
 - ▶ 流域圏懇談会メンバーの拠り所を設けることにしたい。(服部)

●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

- ・ 森林路網の整備が種多様に及ぼす影響として、最初は光が要因だとして研究を進めてきたが、調査結果から他の要因の可能性が疑われるようになった。それは何であるか予想はつくか。(洲崎)
 - ▶ 森林路網の整備により地形が改変されるため、土壌水分が関わるのではないかと考えている。(孝森)
- ・ 光という目の付け所はよいと思うので諦めないでほしい。路網の開設前後、その後の推移がわかるとよい。(大重)
- ・ 根羽村では、今後新たな森林路網を開設する予定だ。継続的な調査を始めるチャンスであると思われる。(南木)
- ・ 適切な場所に開設される森林路網は、種多性を高める効果があるという流れにすることで本研究が生きてくると思う。この研究を活かせるストーリーの検討が必要だと思う。(洲崎)

●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

- ・ 竹林の利活用に対する活動に感動した。ただ、これだけきれいにすると、竹がなくなる心配はないか。(近藤)
 - ▶ 5年以上の竹を皆伐し、その付近から伸びてくるものを親竹として残している。(曾根原)
- ・ 竹林を撲滅させるにはどのような方法があるか。(丹羽)
 - ▶ まず、12月～4月までの低温期に地下茎を弱らせる目的として腰高で伐る。その後、3～4年は新たに生じる芽を伐る作業を継続する。それくらいしないと撲滅はできない。(曾根原)
- ・ メンマに使う部位は、タケノコが伸ばした硬い茎でよいのか。(高橋)
 - ▶ メンマの加工にとって鎌でさくっと伐れる生長段階が最もふさわしく、あれが食品としての歯触りになる。逆に柔らかくて利用できると思われる生長点は使えない。先入観にとらわれないことが重要だ。(曾根原)
- ・ 竹の筏は、流れが比較的緩やかな流域が適しており、水面を叩く音と振動が素晴らしい。(曾根原)
 - ▶ 是非、矢作川でも天竜川の筏を取り入れたい。(丹羽)



◆根羽村におけるフィールドワーク

- ①信州大学の研究フィールド
(案内人：孝森博樹さん)
森林路網と植物の種多様性について、状況確認を行った。
- ②帯状間伐の実施状況
(案内人：今村豊さん)
帯状間伐の成果と課題について、状況確認を行った。



帯状間伐実施状況

今後のスケジュール (予定)

次回の山部会WGは、9月8日(金)～9日(土) 恵那・飯田にて開催します。 ※9日は勉強会

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 松山、事務副所長 春日井
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100 調査係長 服部

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijnet.or.jp) までお送りください。

